**浄土宗西山派**

永観堂は、西山浄土宗三派のひとつである浄土宗西山派禅林寺の本堂であり、永観堂の第十三代住職である善恵坊証空（1177–1247）によって設立された。 浄土宗は阿弥陀佛の力への熱烈な信仰が特徴であり、阿弥陀佛は救いを求める全ての人々を救うまで、ご自身の本願である完全な悟りを遅らせた。 この誓いは、阿弥陀仏の西方極楽浄土での再生を達成するための方法と同様に、佛説無量寿経、佛説阿弥陀経、および佛説観無量寿経に記述されている。これらの三部経典は、浄土宗の基本経典である。

善恵坊証空は、日本で浄土宗を確立した輝かしい業績を持つ法然上人（1133-1212）の最高の弟子であった。 法然上人は、何世紀にもわたるインド、中国、日本の浄土経の研究を統合し、2つの重要な理解に到達した。第一は、釈迦の存在が薄れ、釈迦の教えがもはや正確に伝えられなくなった釈迦の死後2000年後に始まる末法に人間社会が突入したということ。第二は、これらの条件下では、生き物は自力で佛の道、悟りに入ることができず、唯一の希望は救済を嘆願する「南無阿弥陀仏」を唱える念仏であったということだ。この懇願の儀式、念佛が浄土宗の重要な佛教修行であった。

法然のもとで修行した証空も、悟りが確約された極楽浄土での再生を達成するためには、阿弥陀様の本願を誠実に信仰することが全てであると信じていた。 証空の考えでは、南無阿弥陀佛を念じることはさほど重要ではなく、阿弥陀様の本願の力に誠実な信仰を持つことがより重要であった。 信仰の意図が同じであった場合、一回の念佛も十回の念仏も、また一万回の念佛も同じだと考えていた。